

20．日本人一般住民における糖尿病および慢性腎臓病の心血管死亡リスクに関する検討

研究協力者 平田 あや（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 大学院生）
研究分担者 岡村 智教（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 教授）
研究協力者 杉山 大典（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 講師）
研究協力者 桑原 和代（慶應義塾大学医学部衛生学公衆衛生学 助教）
研究分担者 門田 文（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任准教授）
研究分担者 藤吉 朗（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 准教授）
研究代表者 三浦 克之（滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学部門 教授）
研究分担者 奥田奈賀子（人間総合科学大学人間科学部健康栄養学科 教授）
研究分担者 大久保孝義（帝京大学医学部衛生学公衆衛生学講座 教授）
研究分担者 岡山 明（生活習慣病予防研究センター 代表）
研究分担者 上島 弘嗣（滋賀医科大学アジア疫学研究センター 特任教授）

【目的】

近年増加が指摘されている慢性腎臓病（CKD）に至る主要な原因疾患の一つが糖尿病（DM）であり、DMを伴うCKDは伴わないCKDより心血管死リスクが高いことが知られているが、これまでに一般住民における集団リスクを検討した報告はなされていない。今回我々は日本人一般住民を代表したNIPPON DATA90（ND90）研究において、DMとCKDの心血管死に対するリスクおよび人口寄与危険割合（population attributable fraction: PAF）を検討した。

【方法】

参加者 8,383名のうち、心血管疾患の既往あり、データ欠測者、追跡不能例を除外した7,229名（男性3,007名、女性4,222名）を解析対象者とした。対象者を糖尿病（随時血糖200mg/dL以上、HbA1c6.5%以上、または血糖降下薬の使用）および慢性腎臓病（eGFR（日本腎臓学会推算式）60mL/min未満または尿蛋白陽性）の有無により4群（None, DM only（DM）, CKD only（CKD）, DM+CKD（Both））に分類し、None群を対照群とした他群の既知の交絡で調整した多変量ハザード比（HR）およびPAFを男女別に算出した。さらに追加解析として2010年時点の有病率を用いて将来の推定PAFを算出した。

【結果】

追跡期間は平均18.0年、追跡人年は129,980人年（男性52,331人年、女性77,649人年）であり、心血管疾患による死亡者数は488名（男性237名、女性451名）であった。男性における各

群の心血管死亡 HR (95%CI) は、DM only 1.87 (1.18-2.96) 、CKD only 1.68 (1.12-2.50) 、Both 2.83 (1.47-5.46) 、PAF は DM only 4.1%、CKD only 5.0%、Both 2.7%と算出された。一方、女性における各群の心血管死亡 HR (95%CI) は、DM only 1.27 (0.75-2.16) 、CKD only 1.13 (0.78-1.65) 、Both 1.43 (0.58-3.51) と有意でなく、PAF も男性より低値となった。追加解析においては、将来の推定 PAF は男女ともに各リスク群で約 2 倍の増加が示唆された。

【結論】

PAF は DM only と CKD only でほぼ同程度である一方で、合併例の寄与はこれらより小さかった。しかし、糖尿病や CKD の有病率は年々増加していることが報告されており、本研究の追加解析結果からも PAF が増加していたことから、これらの疾患に対する予防・介入の重要性は今後ますます高まることが予想される。

Eur J Prev Cardiol. 2016(in press)

第 75 回日本公衆衛生学会総会 (2016 年 10 月 26 日 ~ 28 日 大阪市) 発表